

聖書日課『からし種』 2025.9.7-9.14

9月7日 (日) ヘブライ 3章	「あなたがたのうちだれ一人、罪に惑わされてかたくなにならないように、『今日』という日のうちに、日々励まし合いなさい」(13節)。ヘブライ書は「神の確かな約束」と「大祭司イエスの執り成し」に支えられている「今日」の大切さを語る。ただ、この「約束」と「執り成し」は目に見えない。一人ではすぐに見失ってしまう。礼拝で共に励まし合える恵みを感謝して。
8日 (月) ヘブライ 4章	「神の御前では隠れた被造物は一つもなく、すべてのものが神の目には裸であり、さらけ出されているのです」(13節)。「神の目には裸である」ことが耐えられなくてアダムとエバは木の陰に隠れたが、私たちも二人と同じではないか。ただそんな私たちに神は、断罪の裁きではなく、深い慈しみに満ちたまなごしを注いで命に導いてくださっている(詩編 33:18~)。
9日 (火) ヘブライ 5章	「キリストは御子であるにもかかわらず、多くの苦しみによって従順を学ばれました」(8節)。御子であるキリストが学ばれた従順とは、「激しい叫び声」(7節)をあげるほどに人の叫びと一つになられたこと。大祭司キリストは人間が経験する最も過酷な苦しみをご自分の苦しみとして知ってくださっている。この方の執り成しの祈りに支えられている恵みを覚えたい。
10日 (水) ヘブライ 6章	「わたしたちが持っているこの希望は、魂にとって頼りになる、安定した錨(いかり)のようなものであり、また、至聖所の垂れ幕の内側に入っていくものなのです」(19節)。どんなに激しい嵐に遭遇し大きな波に飲み込まれそうになっても、私たちはキリストの錨のゆえに、神の恵みから切り離され遭難することはない。この希望につながられている恵みを感謝して。

聖書日課 『からし種』 2025.9.7-9.14

11日 (木) ヘブライ 7章	「この方(イエス)は常に生きていて、人々のために執り成しておられるので、御自分を通して神に近づく人たちを、完全に救うことがおできになります」(25節)。私たちの側では、神の言葉が聞こえなくなり、神の恵みを見失ってしまうことがあっても、「常に生きていて、執り成してくださる」大祭司は完全な救いに私たちを導いてくださる。その幸いを賛美していこう。
12日 (金) ヘブライ 8章	「わたしたちの大祭司(イエス)は、それよりはるかに優れた務めを得て…更にまさった契約の仲介者になられたからです」(6節)。旧約聖書の大祭司がどんなに優れた供え物をささげたとしても、ご自身をささげられた大祭司イエスの「完全な救い」には遠く及ばない。新しい、優れた約束の大祭司の祈りと導きの中に歩める幸いを共に分かち合っていこう。
13日 (土) ヘブライ 9章	「こういうわけで、キリストは新しい契約の仲介者なのです」(15節)。キリストは恵みの大祭司として、ただ一度聖所に入って永遠の贖いを成し遂げられた。「新しい契約」とは私たちを神礼拝に生きる民とする契約。世界がどれだけ暗闇に覆われても、神を礼拝して賛美をささげる幸いを証していく教会として、主日の礼拝をみんなで大切にささげていこう。
14日 (日) ヘブライ 10章	「だから、自分の確信を捨ててはいけません。この確信には大きな報いがあります。神の御心を行って約束されたものを受けするためには、忍耐が必要なのです」(35~36節)。パウロは何とかして死者の中からの復活に達したいと願い、目標を目指してひたすら走っていると証した(フィリピ 3:11)。わたしたちも忍耐して主の言葉を求めよう。